

小松市埋蔵文化財調査だより

第2号 1992.3.31

小松市教育委員会 〒923 石川県小松市小馬出町91番地
埋蔵文化財調査室 TEL (0761) 22-4111



さとかわ いせき そせき たてものあと
里川E遺跡礎石建物跡

里川町と鶯川町とにはさまれた丘陵地のゴルフ場造成用地内には里川A～Gの7遺跡からなる里川遺跡群が存在し、その内、工事にかかるA・D・Eの3遺跡を調査対象として、平成2年度にA・D遺跡の調査を完了、E遺跡の調査を平成3年3月4日から7月3日にかけて実施しました。里川E遺跡は、古代の山中寺院と考えられる重要な遺跡で、文献記録が残っていない新発見の寺院跡でした。谷から少し入り込んだ山の尾根頂上に近い斜面上で、平野や、広い谷筋から隠れるようにひっそりと立地しています。しかし、建立のための工事には大変な労力が費やされており、山の斜面をコの字形に切り崩して谷を埋め、三方が急なおり面で囲まれた30×40mの平坦面をまず造成します。山側の切り崩しは高さ3m以上に達し、盛土の肩には、崩れを防ぐ石垣も築かれています。中央部に、コの字形に溝で囲った間口5間(9m)、奥行き3間(6.5m)の総柱そうばしらの大型礎石建物おおかたそせきたてものが建てられており、礎石はいくつかが失われていますが、付近で取れる凝灰岩の割石を利用しています。瓦は葺かれておらず、鉄釘が多数出土しています。これが本堂にあたり、この両脇には、地面に直接柱を埋める掘立柱建物ほったてばしらたてものが付属建物として整然と配置されていました。時期は、9世紀末から10世紀前半の平安時代に属することが、出土土器から判明しています。



平成3年度の小松市内埋蔵文化財発掘調査

まつなし いせき 松梨遺跡の調査

所在地 小松市蛭川町地内

調査期間 平成3年3月1日～5月24日

原因 犬丸小学校プール建設

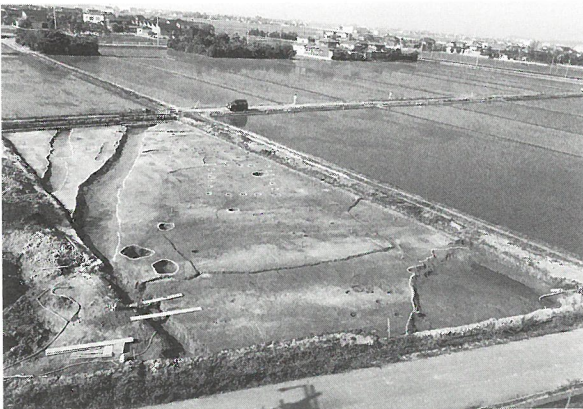
遺跡の概要 松梨遺跡の存在する地域は梯川と手取川に挟まれた、広大な扇状地帯で、広い平野と低湿な土壌は米作りに適し、弥生時代から現在に至るまで、集落が連続と営まれ続けています。松梨遺跡もその中の一つと言え、弥生時代から鎌倉時代頃まで営まれた犬丸町・蛭川町・松梨町の三町にまたがる500m四方の大規模な遺跡です。

調査の概要 今回調査したのは犬丸小学校プール建設用地の1,100㎡で、発見された遺構は村を取り囲むと予想される幅3m、深さ50cm程度の溝が1条（1号溝）、幅10m、深さ1mを越える河道とも思われる大溝が1条（大溝）、浅い溝状の遺構が2条、横に5本、縦に7本の柱を配する平地式の住居と考えられる掘立柱建物跡が1棟、井戸として使用されたと予想される土坑が5基です。出土した遺物は弥生時代から鎌倉時代にわたるもので、特に1号溝からは奈良時代末から平安時代初めの須恵器・土師器が多量に出土し、その中には土器に墨で漢字や記号を記した墨書土器が多く発見されました。また、当時は高級品であった漆器も出土しており、身分の高い人間の関わった遺跡であることが予想されます。また、6号土坑の井戸枠は丸木舟を転



松梨遺跡と銀畑遺跡の位置（S=1/25,000）

用したもので（古墳時代後半頃のものと予想されます）、丸木舟の船尾と船首を再利用する形で、組み合わせて土に打ち込み、井戸枠としています。このような丸木舟の発見は県内初であり、また、その存在は、近辺の小河川を使った物資の運搬などを予想させ、河川を利用して発展してきた当時の集落の在り方を如実に映し出していると言えるでしょう。以上の他に、2号土坑からは斎串と呼ばれる水の神を祭った木札や大溝から平安時代の木製椀・皿や飯櫃として使われた木製の曲物、銅銭が出土しています。



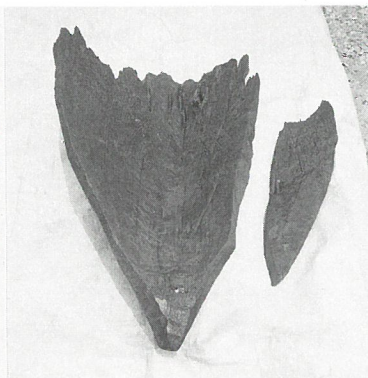
松梨遺跡発掘調査全景



1号溝出土の須恵器



6号土坑の丸木舟を転用した井戸



丸木舟船首



丸木舟船尾

ぜにばたけいせき 銭畑遺跡の調査

所在地 小松市御館町地内

調査期間 平成3年6月6日～8月12日

原因 社屋建設（南征建設運輸株式会社）

遺跡の概要 銭畑遺跡は松梨遺跡の南西側に隣接する遺跡で、この北側に存在する御館遺跡とともに鎌倉・室町時代の集落遺跡が存在しています。当地には西堀、東堀、城門、御庵等の地名が言い伝えられ、中世に豪族の館があったものと予想されています。御館の地名も館があった所の意味で付けられたもので、銭畑遺跡の名は江戸時代に鋳銭数百貫が発見されたことから付けられています。

調査の概要 今回調査したのは事務所建設用地の600㎡で、東西に伸びる溝3条と南北に伸びる溝1条を発見しました。いずれも幅1.5m程度のもので、その性格ははっきりしませんが、村や館を囲む溝の可能性があり。また、この地にも井戸と思われる土坑が7基発見され、井戸枠も1箇所発見されました。遺物は主に溝から出土しており、鎌倉・室町時代の陶器や土師器、中国製磁器の土器の他、漆器、曲物、横櫛、網の木枠、石臼等があります。

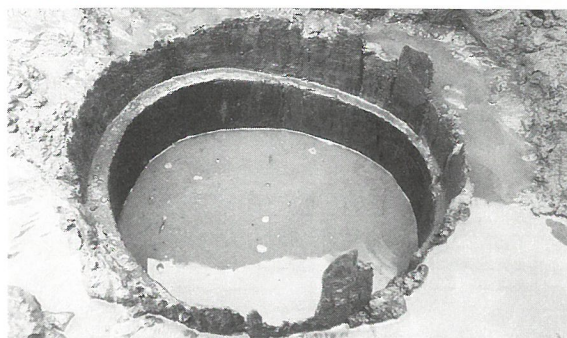
しもやさと ちかしきこうぐん 下八里B地下式墳群の調査

所在地 小松市下八里町地内

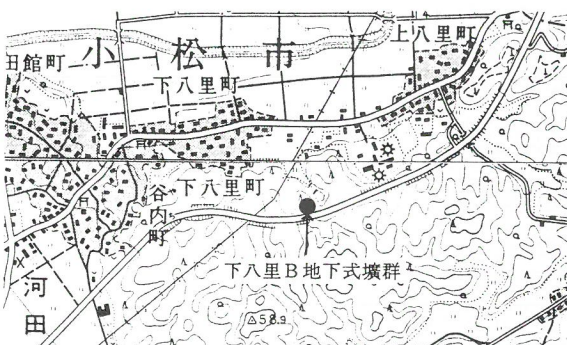
調査期間 平成3年7月4日～7月31日

原因 市道建設

調査の概要 中世のものと予想される地下式墳が3基発見されました。地下式墳とは地下に横穴ま堅穴の洞窟を掘ったもので、貯蔵穴や墓、修験者の洞窟等の説があります。しかし、その性格は不明で、下八里・上八里近辺に多く存在しています。



銭畑遺跡（上から全景、井戸枠、網の木枠）



下八里B地下墳群の位置（S=1/25,000）

ねんぶつりんみなみいせき

念仏林南遺跡の調査

所在地 小松市月津町地内

調査期間 平成3年8月19日～12月24日

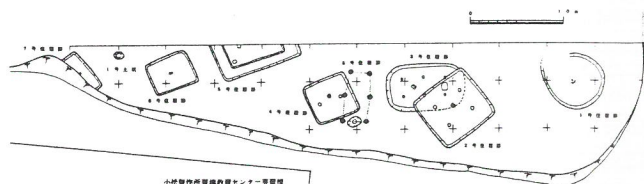
原因 市道建設

遺跡の概要 念仏林南遺跡は老人ホーム第二松寿園建設に伴って発見された遺跡で、この工事に先立って以前発掘調査を実施しています。この調査では縄文時代の堅穴住居跡が1軒と獣を取る落とし穴9基、弥生時代末の堅穴住居跡が4軒、古墳時代中期の堅穴住居跡が2軒、古墳時代後期の堅穴住居跡21軒と掘立柱建物跡13棟を発見し、縄文時代から古墳時代に至る大きな村が存在していたことが解りました。この地は当時柴山湯が近くまで入り込んでおり、入り江に面する小高い台地であったと予想され、村を作るには好条件の場所だったようです。

調査の概要 今回調査を行ったのは念仏林南遺跡の南端にあたる部分で、幅7m、長さ60mの狭い調査範囲内にも関わらず、住居跡が8軒発見されました。時代は縄文時代と古墳時代のもので、縄文時代の住居跡からは石斧や石鏃、縄文土器が、古墳時代の住居跡から土師器の壺や甕が多量に出土しています。縄文時代は堅穴住居跡2軒と平地式住居跡1軒で、堅穴住居跡は幅5m、長さ8mの小判型で、その中に柱穴を2本ずつ縦に計6本配列しています。縄文時代としては珍しい平地式住居とともに、県内でも有数の資料と言えます。古墳時代は初頭の土坑1基以外は中期のもので、堅穴住居



念仏林南遺跡の位置 (1/2,500)

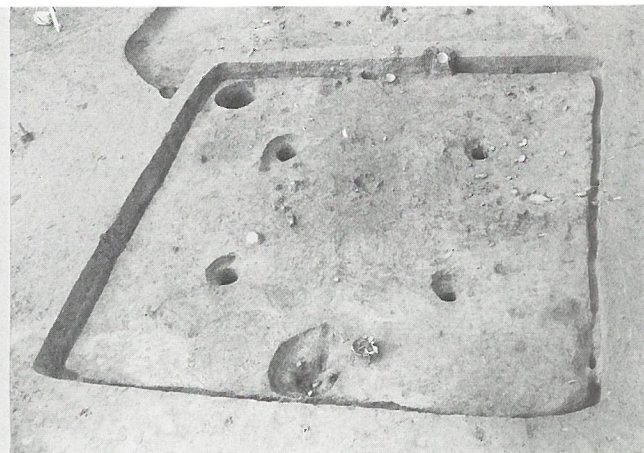


発掘調査区域全体図 (1/800)

跡5軒が発見されました。この中で、残りの良かった2号住居跡は6.5m四方の方形のもので、4本の柱穴を配し、その中央には煮炊きの場所として使われたであろう炉が設けられています。これら古墳時代中期の堅穴住居跡はいずれもほぼ同じ方向を向いて、一定の間隔を置いて建てられており、当時の村の様子を物語っております。



発掘調査区域全景



2号住居跡

はやすいせき

林遺跡の調査

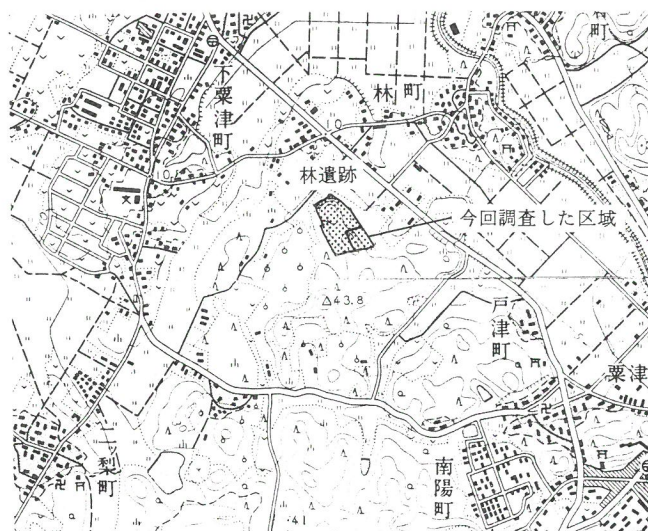
所在地 小松市林町地内

調査期間 平成3年4月3日～12月25日

原因 市民文化会館建設

遺跡の概要 小松市の林町から加賀市松山町に至る丘陵地には古墳時代から室町時代にかけての焼物（須恵器・土師器・加賀焼）を生産した窯跡が数多く存在し、その数は200基にも登っています。これらの窯跡群は総称して南加賀古窯跡群と呼ばれており、北陸でも最大級の規模を誇っています。また、これらの窯跡群と場所を同じくして製鉄遺跡も数多く確認されており、その分布の北側は蓮代寺町まで及んでいます。林遺跡はこのような窯跡群・製鉄遺跡群の中に属するもので、昭和63年度に実施した分布調査では須恵器窯跡3基と製鉄跡2基を確認しています。また、平成元年・2年度には奈良時代の製鉄跡1基（1号製鉄跡）とそれに伴う炭窯跡1基（1号窯跡）を発掘調査しています。

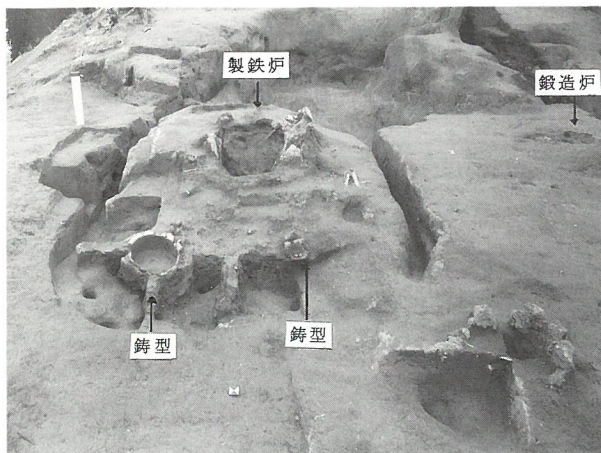
調査の概要 平成3年度調査を行ったのは2年度に一部調査を行っていた2号製鉄跡とそれに伴う炭窯跡（3号窯跡）1基、須恵器窯跡（2号窯跡）1基です。2号製鉄跡は平安時代終わり頃のもので、四角く溝で仕切られた中に、堅型炉構造をもつ製鉄炉とその下方左右に鋳型が大小2基発見されました（大は羽釜、小は鍋）。製鉄炉は2回改造を行っていたことが確認され、当初は原料の砂鉄から鉄を作り出す製錬・精錬用であったと思われますが、改造後のものは炉の下にある2基の鋳



林遺跡の位置（1／25,000）

型に流し込んで鉄鍋などの製品を作る鋳造炉であった可能性をもちます。また、この製鉄跡の右側には鍛冶を行った鍛造炉も発見されています。炭窯跡は2号製鉄跡の右側に隣接して築かれており地下式の窖窯構造のものです。

須恵器窯跡は古墳時代末（7世紀初め）のもので、全長11m、幅1.5m程度の細長い大型の登窯です。構造はトンネル状に掘った地下式で、窯床の傾斜が急のため、石の焼台が配列されています。また、窯の上端には煙出しの穴が空けられていますが、ここから左に幅1m程度の溝状のものが掘り込まれており、途中でテラスを設けながら、窯の下方へと伸びています。これは窯を焼く人々の作業をする場所または作業道として使われていた可能性をもち、注目されます。



2号製鉄跡



2号窯跡（須恵器窯）

小松の重要遺跡・遺物 ②

河田山古墳群

現在住宅団地国府台となっている高台は、以前は河田山と呼ばれ、梯川流域を一望できる起伏に富んだ丘陵でした。昭和61・62の団地造成工事に先立つ調査で、総数61基からなる大古墳群の存在が判明し、その内、52基が発掘調査され、9基が現状のまま保存されました。五つの各尾根筋上に、前方後円墳や前方後方墳、方墳、円墳など、古墳時代前期～中期（4世紀～5世紀代）の古墳が多数築かれており、また、これらの古墳とは1世紀以上間を置いて造られた、石室をもつ古墳の発見も注目されました。12号墳と33号墳で、両者とも7世紀の後半代に築かれた方墳でした。石室は、凝灰岩の精巧な切石をいくつも組み合わせた切石積横穴式石室と呼ばれるもので、特に12号墳のものは、幅約2.3m、長さ5.5mと非常に大きく、側壁の上方が内側に強くカーブすることからアーチ形の天井になる可能性をもつものでした。このような石室は日本に例がなく、朝鮮半島南部の王墓に類例が見られるものです。墳丘は一边15mを測り、前面の裾を2段の石列が飾っているなどかなりの有力者の墓であったことは確実です。12号墳の石室は、石室の乗る地盤ごと近接する公園予定地まで移動させて保存しました。この公園は河田山で最も高い尾根で、前期の前方後方墳である1号墳と石室を持つ9号墳が森林状態で保存されています。移設した石室は、盛土で覆って築造当初の墳丘に復元し、いつでも見学できるように古墳公園



並んで築造された円墳（48・49号墳）



12号墳の石室

として整備しました。また、33号墳の石室は、調査後に解体して、風化を防ぐ保存処理を施し、古墳公園に隣接して建設された河田山古墳群史跡資料館の中に再度組み建てて展示してあります。資料館は、河田山古墳群の出土品とともに、古墳時代について詳しく学習できるように解説・展示しており、平成4年度に公開することになっていま

平成3年度 埋蔵文化財調査事業一覧

発掘調査	遺跡名	所在地	調査期間	原因	時代	面積㎡
	松梨遺跡	蛭川町	3月1日～5月24日	小学校プール建設(市)	弥生～中世	1,100
	下八里B地下式墳群	下八里町	7月4日～7月31日	市道建設(市)	中世	500
	念仏林南遺跡	月津町	8月19日～12月24日	市道建設(市)	縄文・古墳	800
	林遺跡	林町	4月3日～12月25日	文化会館建設(市)	古墳・平安	5,000
	里川E遺跡	里川町	3月4日～7月3日	ゴルフ場建設(民)	平安	1,500
	銭畑遺跡	御館町	6月6日～8月12日	社屋建設(民)	鎌倉・室町	600
分布調査	開発行為名称	所在地	開発面積	調査日	備考	
	道路改良(市)	五国寺町	925㎡	3月6日	遺跡発見されず	
	土地改良総合整備(市)	千代町	21,000㎡	3月12日	遺跡発見されず	
	駐車場造成(民)	沖町	23,663㎡	5月29日	遺跡発見されず	
	マンション建設(民)	八幡・若杉町	4,970㎡	7月9日	遺跡発見されず	
	子供広場造成(民)	中海町	8,334㎡	10月21日	遺跡発見されず	
	宅地造成(民)	平面町	5,500㎡	11月30日	弥生時代の遺跡を確認	
	果樹園整備(民)	戸津町	2,000㎡	3月23～25日	製鉄遺跡を確認	
	個人住宅建設(民)	河田町	270㎡	3月25・27日	縄文時代の遺跡確認	
	墓地造成(民)	今江町	700㎡	3月26日	縄文・古墳・平安時代の遺跡確認	

(市)は市営事業、(民)は民間事業を示す。